

令和7年度認知症サポーターステップアップ講座 実績報告

講座の目的

認知症サポーター養成講座を受講した「認知症サポーター」のうち、**実際のボランティア活動**を希望する方を対象に、認知症の理解と実際の活動をイメージした講義を通じて、**チームオレンジにつながるボランティア**を養成することを目的としています。

主催：認知症地域支援推進員の活動「みかんの会」活動班
「認知症サポーターステップアップ講座班」

講座の内容・講師

講座内容	講師
千葉市の認知症施策について	千葉市地域包括ケア推進課
認知症の人の理解と対応	認知症サポーターステップアップ講座班 認知症地域支援推進員
コミュニケーションの基本と実践	認知症サポーターステップアップ講座班 認知症地域支援推進員
チームオレンジとは？ ～受講修了後の活動紹介～	千葉市地域包括ケア推進課、認知症地域支援推進員 認知症サポーターステップアップ講座修了者、当事者
ボランティア登録について	千葉市社会福祉協議会

講師は認知症地域支援推進員及び千葉県認知症コーディネーターで構成された「みかんの会」の活動班メンバーが担当しています。

受講会場別受講者数

会場	市役所	稲毛	若葉	美浜	合計
受講者数	16	9	9	10	44
修了者名簿掲載者	12	5	8	8	33

参加者アンケート



コミュニケーションの実践：ロールプレイ

・演習などを通して声のかけ方や話し方など関わることへの難しさなどを知ることができた・否定せずに受け止める気持ちも学んだ。



認知症の方の気持ちを学ぶ

・希望大使の方々のインタビュー動画を見て認知症のイメージが変わった。
・認知症の方の気持ちを体験することで、どんな気持ちか想像できた。



チームオレンジ ～受講終了後の活動紹介～

・カフェ主催者のお話が熱く素晴らしい、エネルギーを感じた。
・当事者のHさんのお話がとても興味深かった。

あんしんケアセンターのみなさまへ

修了者の情報は**圏域のあんしんケアセンター**に**情報提供**が可能です。
修了者の名簿情報が必要な方は地域包括ケア推進課まで☎でご連絡ください。

千葉市の認知症施策について

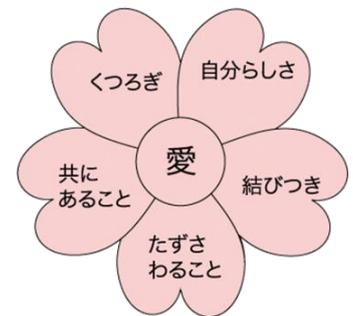


これから認知症の方や家族のニーズ・希望を叶えるための活動をする受講者の方に、共生社会の実現を推進するための認知症基本法や千葉市の認知症施策について説明しました。

千葉市の認知症の特設サイト「**千葉市認知症ナビ**」について紹介し、掲載されている情報について説明しました。「認知症ナビ」、「認知症カフェ」、「どこシル伝言板」を知っている方も多くいらっしゃいました。

認知症の基礎知識について

故トム・キッドウッド氏が提唱した**パーソンセンタードケア**、人のニーズを花びらに例え、花びらが重なることで最終的に素敵な花ができあがること、花びらの中心の「愛」は博愛、思いやりと捉えると説明がありました。社会の一員として共に行動したいので、「共にあること」を大切にしたい、自分という存在を認められて生活できる環境「自分らしさ」を大切にしたいという意見もありました。

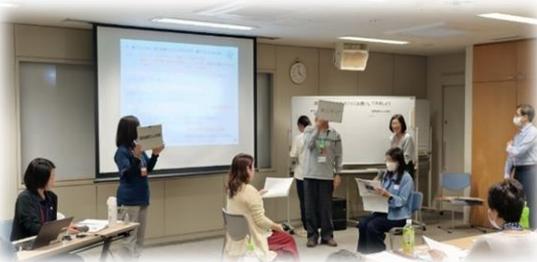


コミュニケーションの基本と実践



非言語的なコミュニケーションの講義を聞き、演習のロールプレイで実践する受講者の方もいらっしゃいました。

事例：もともと体操選手だった A さんが「もうだめですね」とお話をされた際にどのように声掛けをしますか？ に対し、「**ダメだなあと感じているんですね。何がダメだと思った出来事があったんですか？**」と受け止めてから原因を探るお声掛けをし、A さんは「**ダメという理由を受け止めて聞いてくれてよかった**」と話されていました。



事例：「認知症カフェに誘ってみよう」

認知症になってから不安が強い A さんを認知症カフェにお誘いする事例をみんなで考えました。

「大勢の中に入るの嫌だわ・・・今はもうだめ」と発言する A さんに対し、「**自分の強みや特性を活かして誘ったり、美味しいお菓子があると** A さんの興味を引くような工夫した声掛けが印象的でした！

チームオレンジとは？～活動終了後の活動紹介～

受講修了後の活動の流れについて説明後、『**認知症サポーターステップアップ講座修了者活動事例集**』に記載されている事例について紹介がありました。ボランティアとして活動している先輩修了者から実体験に基づいたお話がありました。カフェに当事者として参加されている方からは、診断直後の思い、居場所としてのカフェについての発言など貴重な意見を伺えました。

